れんげ畑

鴻巣市立鴻巣中央小学校
令 和 ４ 年 ２ 月 号

学 校 教 育 目 標　【知】友と学ぶ子　【徳】心の豊かな子　【体】体をきたえる子
キャッチフレーズ　「はきはき・にこにこ・きびきび」
ホ ー ム ペ ー ジ　https://kochuo-e-konosu.edumap.jp/　児童数３７０人

「やれること」と「やってはいけないこと」

校　長　清水　励

２月となりました。和風月名は「如月（きさらぎ）」。短い音の中に日本語の美しさを感じる月名です。「如月」の読み方の由来の一つに、「まだまだ寒い日が続くので、さらに重ね着をする（衣更着）」というものがあるとおり、暖かな春の陽ざしが恋しい日々が続いております。

さて、新型コロナウイルスの「第６波」の感染拡大は、これまで以上に大きな波として続いております。御周知のとおり、オミクロン株は、その感染力の強さと併せて、子供たちの年代にも感染しやすいという特徴があるようで、全国の保育所や学校において学級閉鎖等が行われています。「重症化する可能性は低い」ということも事実のようで、これは幸いなことではありますが、「感染予防を軽くみてよい」ということにはつながりません。引き続き、学校としては感染予防を第一に考えながら教育活動を進めてまいりますので、保護者の皆様も、各御家庭における健康管理と感染予防を引き続きお願いいたします。

昨年１０月、徳島県のある病院が「サイバー攻撃」を受けて、病院としての機能を奪われてしまうという事件が起きました。この「サイバー攻撃」は、病院のシステムを使えないようにして、その復旧と引き換えに身代金を要求するという、悪質極まりないものでした。復旧には２か月以上かかり、その間、病院の業務は停止・限定され、業務はすべて「手書き」で行われたとのことです。

また、過日行われた「大学入学共通テスト」では、試験時間中にネットを介して問題が流出するという前代未聞の事件が起こりました。大学入試という「公平性」が絶対条件であるテストの根底が揺らいでしまうこの事件、有効な再犯防止策を講じなければ、受験生だけでなく、多くの関係者に影響を及ぼすものと思われます。

一般の人々にインターネットの利用が普及してから、約２５年。この短い間に、私たちの生活は劇的に変化してきました。この「情報化」という変化、多くは私たちの生活を快適にするものとして、今や日々の生活の中に溶け込んできています。しかし、このような中、私たちにはこれまでにない**「気をつけなければならないこと」**があると感じています。

それは、「情報化」以前の社会では、「やれること」と「やってはいけないこと」には、いろいろな意味である程度の「距離」がありましたが、「情報化」が進んだ現在、**「やれること」と「やってはいけないこと」の「距離」が格段に小さくなってきている**ということです。例えば、ネット上の掲示板などに爆破予告や他者を誹謗中傷することを掲載したり、著作物を違法に使用したりすることなど。これらは、情報端末が一台あれば、子供でも簡単に行うことができ、その影響（結果）は、大人がやっても子供がやって同じものとなってしまいます。そして、情報社会の特性としてある「匿名性」は、「人の良心」という「一番のブレーキ」の利きを悪くしてしまうこともあるようです。

今、学校では、一人一台の学習者用端末を使いながら、子供たちの学びの充実を図っておりますが、子供たちにこれらの「やれること」と「やってはいけないこと」をしっかりと見極め、適切に行動できる判断力をもった情報化社会の一員となれるよう、ＩＣＴの活用を進めてまいりたいと思います。